

校名：長崎大学教育学部附属特別幼稚園

所在地：〒852-8131 長崎市文教町4番23号 電話番号：095-819-2287

記載日：2016年5月10日 記載者：大町 美紀

記載者役職：園長

貴校の校風、おおまかな特色について：

本年度、創立130周年を迎える伝統ある幼稚園です。

桜並木の美しい園内、食べられる木がたくさんあり、四季折々の花が咲いています。

年少（3歳児）1クラス、年中（4歳児）2クラス、年長（5歳児）2クラス 総計128人の園児と13人の職員が毎日楽しく生活をしています。

子どもたちの自主性を重んじて遊び中心の自由保育を行っています。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査をしているかどうか、また、その方法
- ② どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか（大学、学校園、その他）
- ③ 状況を具体的にお書きください

調査はしていません。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査をしているかどうか、また、その方法
- ② どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか（大学、学校園、その他）
- ③ 状況を具体的にお書きください

調査はしていません。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：【いくつかの事例を記載いただいても構いません。大学や地域との連携、PTA や外部人材の活用、その取り組みがある一定のスパンのもとに実施されているか（前後の授業や活動などと、どのようにリンクしているか）、地域（公立学校など）へ還元されているかなどについても、わかりやすく記載してください】

#### <大学との連携>

##### ☆教職セミナー（年間 10 回）

附属幼稚園教員を対象とした現職教育を行っています。長崎大学教育学部の教授や元教授、幼稚園の元園長などを講師として招聘し、小学校以降の学びと幼児期の学びの違いや幼児教育の基本について学ぶ機会にしています。

#### 内容

- 附属幼稚園新任教員対象の幼児教育セミナー
- 幼稚園と小学校以降の学びの違い
- 副免実習について
- 幼児教育について

##### ☆ミニ講座（年間 8 回）

附属幼稚園の保護者や園庭開放に訪れる保護者対象の講座。大学の教授や元園長を講師として招聘し、専門的な立場から幼児教育について話を伺っています。

#### 内容

- 幼児期の保育、教育課題
- 附属幼稚園の特徴
- 子育ての現状
- 幼児教育で大切なこと

##### ☆〇〇博士登場！！

附属幼稚園の園児対象に、大学の先生が専門性を生かして、話をしていただいています。

- 虫博士登場！！
- 電気博士登場！！
- 宇宙博士登場！！

#### <地域への貢献>

##### ☆園庭開放（年 12 回 1 時間半程度）

地域の未就園児対象に、遊び場の提供を行い、地域に開かれた幼稚園としての役割を果たしています。

##### ☆ほしの子ランド（年 2 回 1 時間程度）

地域の未就園児 2 歳半～5 歳児の親子対象に、本園の園児と一緒に楽しむ機会を作っています。

##### ☆幼稚園案内（年 1 回 2 時間程度）

附属幼稚園の教育方針を地域の人に伝える機会にするために、地域の未就園児親子対象に説明を行っています。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：（一般論ではなく、できるだけ、具体的な状況が理解できるように記載してください）

- ・ 研究校として、1歩でも半歩でも先に行く研究を行っています。
- ・ 教員養成の大学附属幼稚園として、主免実習・副免実習を行い、質の高い教員を育てています。
- ・ 長崎県の国公立幼稚園園長対象や新任の先生方対象に保育を公開し、研修を行っています。
- ・ 意識の高い保護者を育て、小学校・中学校・高校へと続く育友会活動の活性化を図っています。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：（現在、この国では少子化の中、少し広域に見るとミッションの重なる教員養成系大学、教育実習の場、教育研究校が存在し、そのような中、教員養成数の削減、そのための場の削減、ひいては附属学校の存在意義までが議論されています。そのような現実の中、一般論ではなく、できるだけ、貴校の実績にもとづいて、この国に附属学校が、この国および地域に貴校が、必要であることをアピールしてください）

最近、子どもの数が減り、幼稚園は子どもの奪い合いです。さまざまな保護者向けのサービスをして何とか園児を獲得しようとしています。そのため、保護者の無理難題にも応じざるを得ない状況です。

そんな中、附属幼稚園は、今でも保護者に対して非常に多くの要求をしています。本園には、通園バスはありません。公共の交通機関、または徒歩で通園することを要求しています。また、給食もありません。週に4回のお弁当です。

公共交通機関を利用するのは、小学校に進学すると一人で公共の交通機関を利用して登校しなければなりません。そのためマナー、ルールを親子でしっかり身に付けてほしい、一緒に歩くことで体を鍛えたり、自然と触れ合ったり、親子でじっくりおしゃべりをしたりする幸せな時間をもってほしいという願いからです。

また、お弁当も子どもへの愛情の表れです。感謝の気持ちをもつこと、食べ物を大事にすることなどを子どもに感じてほしいと思っています。

すべては、子どもの幸せのためです。そのことが、保護者を鍛えることにもなっています。保護者教育を行っているのです。

保護者は、この園で子どもとじっくり向き合う子育てをしています。子育ての楽しさ、充実感を味わっています。それが、本園の保護者の出生率の高さにも表れています。